

学科	航空整備科	学年	1年
科目	航空力学	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
全機力 の特性 と性能	11. 離陸性能 12. 着陸性能 13. 巡航性能 14. プロペラの効率と推力 15. ピストン機の性能 16. ジェット機の性能	11～2月	(22)	
	確認試験		1	
高速空 気力学 と安定性	1. 圧縮性と音速 2. マッハ数 3. 衝撃波 4. 形状の影響(面積法則) 5. 平面形 6. 高速機の翼型 7. 静安定と動安定 8. 飛行機の三軸と揺れの方向 9. 縦の安定、横の安定 10. 方向の安定 11. 上反角効果 12. 横揺れ、横滑り、偏揺れの相互関係 13. きりもみ	7～9月	14	
	確認試験		1	
操縦性	1. 舵の効きと重さ 2. 舵の重さを減少する方法 3. 補助翼 4. 昇降舵 5. 方向舵 6. スポイラー 7. スタビライザー 8. タブの種類と作用 9. スタビレーター、エレボン、ラダベーター、フラップロン 10. 三舵の特性 11. 運動性能	9～10月	9	
	確認試験		1	

学科	航空整備科	学年	1年
科目	航空力学	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
重量及び重心位置と航空機の振動	1. 飛行機の重量 2. 重心位置の表示 3. 重心位置の測定 4. 重心位置の計算法 5. フラッタ 6. ダイバージェンス 7. バフエット 8. 補助翼の逆効き	10～11月	9	
	確認試験		1	

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	鈴木勇希 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	情報処理 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	30
教科書	例題50+演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト				
参考書	—				

教 育 の 内 容				
授業概要	コンピュータの正しい使い方とマイクロソフトオフィス(ワード、エクセル)の基本を学ぶ。			
実務経験	—			
授業の進め方	授業では、板書、プレゼンテーション等を活用する。			
到達目標	1. メディアリテラシーを理解する 2. 文書作成ソフトウェアの基本操作が実施出来る 3. 表計算ソフトエクセルの基本操作が実施出来る			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	60%	30%	10%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	メディアリテラシー	10		
2	マイクロソフト ワード基礎	10		
3	マイクロソフト エクセル基礎	10		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	情報処理 I	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
メディアリテ	<ul style="list-style-type: none"> a インターネット b メディアコミュニケーション c セキュリティ d インターネットの著作権 	4月～6月	10	
ワードソフト基礎	<ul style="list-style-type: none"> a Wordの基本操作を理解 c テキストデザイン d チラシデザイン e ポスターデザイン f 段組みデザイン g ラベルデザイン 	6月～10月	10	
エクセルソフト基礎	<ul style="list-style-type: none"> a 表計算シートを作る b 表計算をする c グラフを作る d データベースを管理する 	11月～3月	10	

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/3ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	佐伯 達夫 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空電気学	授業 方法	講義 (演習) 実習	教育時間	75
教科書	日本航空技術協会「航空工学講座 9 航空電子・電気の基礎」				
	日本航空技術協会「航空工学講座 10 航空電子・電気装備」				
参考書					

教 育 の 内 容				
授業概要	演習を通して理論的・化学的な思考力を身につけるとともに航空機の電子技術の基礎知識と電子回路図を読解できるようにする。			
実務経験				
授業の進め方	演習にて進める。			
到達目標	一等航空運航整備士の資格取得に必要な基礎知識を習得する。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	0%	20%	100%
授 業 計 画 (1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	静電気・電界と電気の基礎	17		
2	半導体・トランジスタと磁界	13		
3	交流回路	10		
4	航空機配電システムとモーター	15		
5	航空機電源システム	14		
6	その他の電装品システムと論理回路	6		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	航空電気学	授業方法	実習

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
1 静電気・電界と電気の基礎	1. 静電気 a. 静電気の発生実験 b. クーロンの法則・電荷の単位 c. 航空機における静電気対策 2. 電流と電気抵抗 a. 電気の基礎実験 1 3. オームの法則 a. 基礎実験 2 4. 抵抗の単位 5. 抵抗の接続 a. 抵抗の接続実験 6. キルヒホッフの法則 a. キルヒホッフの法則回路実験 7. ホイートストーンブリッジ a. ブリッジ回路の基礎実験	4月～6月	16	
	技量チェック		1	
2 半導体・トランジスタと磁界	1. 電子の運動と電流 a. P型半導体とN型半導体 2. ダイオードとトランジスタ a. ダイオードの基礎実験 b. トランジスタの基礎実験 3. 導体と半導体の抵抗 a. 導体と半導体の温度と抵抗の変化 4. 半導体の応用例 a. サーミスタ、CdSの基礎実験 5. 磁界 a. 磁気と磁界の実験 6. 電流のつくる磁界 7. 磁界の中で電流の受ける力 8. 電磁誘導	7月～8月	12	
	技量チェック		1	
3 交流回路	1. 交流の波高値・実効値 2. 変圧器と電磁誘導 3. 交流回路 a. コイルに流れる交流の実験 b. コンデンサを流れる交流の実験 c. R-C-L回路とインピーダンス d. 共振回路	9月	9	
	技量チェック		1	

学科	航空整備科	学年	1年
科目	航空電気学	授業方法	実習

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
4 航空機配電システムとモーター	1. 配線 a. 配線識別記号とシンボルマーク 2. 電気部品 a. トグル・スイッチ b. マイクロ・スイッチ c. プロキシミティ・スイッチ d. リレー 3. 回路保護装置 a. ヒューズ b. サーキット・ブレーカー c. 逆流防止装置 4. 電圧計・電流計 5. 警報・表示灯 6. 直流モーター a. 直流モーターの作動原理と構造 7. 交流モーター a. 誘導モーター	10月～12月	14	
	技量チェック		1	
5 航空機電源システム	1. 直流発電機 2. 交流発電機 3. 電圧調整器 a. 電圧調整器 b. 電流制限器 c. 逆流防止装置 4. インバーター 5. セスナの電源システム	12月～2月	13	
	技量チェック		1	
6 その他の電装品システムと論理回路	1. 着陸装置の制御システム 2. 防氷・除氷システム 3. その他のシステム 4. ダイオード・トランジスタの実験 5. ICの構造と論理素子 a. AND・ORの基礎知識 b. NOTの基礎知識 c. NAND・NORの基礎知識 6. 論理回路と有接点回路 a. 有接点スイッチの回路実験 b. 論理素子を使った回路実験	3月	5	
	技量チェック		1	

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	高岡 教代 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	TOEIC演習	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	90
教科書	公式 TOEIC Listening & Reading 問題集8				
参考書	TOEIC TEST 必ず☆でる単 スピードマスター 超必須の英単語1000				

教 育 の 内 容				
授業概要	TOEIC Listening & Reading Testの試験対策をおこなう			
実務経験	—			
授業の進め方	リスニング対策や文法・英文解釈等のリーディング対策をおこなう			
到達目標	1 TOEIC Listening & Reading Test 400点以上の取得を目指す			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	英文法	5		
2	TOEIC Part1 写真描写問題	5		
3	TOEIC Part2 応答問題	10		
4	TOEIC Part3 会話問題	20		
5	TOEIC Part4 説明文問題	20		
6	TOEIC Part5 短文穴埋め問題	10		
7	TOEIC Part7 読解問題(シングルパッセージ)	20		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	TOEIC演習	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
英文法	a 品詞 b 動詞 c 代名詞 d 前置詞 e 接続詞 f 関係代名詞	4月	5	
TOEIC 真描写問題 写	a 言い換え表現 b 人物の描写 b ものの描写	4月～5月	5	
TOEIC 2 C 応答問題	a 疑問詞 b Yes/No疑問文 c 平叙文	6月	10	
TOEIC 3 C 会話問題	a 問題の特徴をつかむ b 先読みの練習 c 音読練習	7月～9月	20	
TOEIC 4 C 説明文 問題	a 問題の特徴をつかむ b 先読みの練習 c 音読練習	10月～11月	20	
TOEIC 穴埋め 問題 5	a 品詞問題 b 動詞問題 c 前置詞・接続詞問題 d 関係詞問題 e 代名詞問題 f その他の問題	12月～2月	10	
TOEIC 7 C 問題 (パッセージ) 読解	a 文章の種類と特徴 b スラッシュリーディング c 速読・文章の大意をつかむ d 音読練習	12月～2月	20	

2022授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

 ・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	中村博昭 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	一般教養	授業 方法	講義 ・演習・実習	教育時間	30
教科書	史上最強SPI&テストセンター				
参考書	—				

教 育 の 内 容				
授業概要	就職試験において広く実施されている能力・適性検査対策として、言語分野・非言語分野にわたるSPI各科目の演習を実施する。また、言語能力・数的能力を中心に、基礎的能力の向上を図り、各種問題に対処する際の考え方を理解する。			
実務経験	—			
授業の進め方	教科書を参考とし、板書などを利用して問題演習を中心に展開する。			
到達目標	1 基礎的計算力を身に着ける。 2 語句や語彙力など一般的知識を身に着ける。 3 就職試験対策をする。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	—	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	非言語能力	30		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	一般教養	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
非言語能力	a 推論 b 順列・組合せ c 確率 d 損益算 e 仕事算 f 速度算 g 集合 h 表の解釈 i 特殊算	4月～2月	30	

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	高岡教代 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	英語 I	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	30
教科書	-				
参考書	英検準2級をひとつひとつわかりやすく 新試験対応版 実用英語技能検定準2級 過去問題				

教 育 の 内 容				
授業概要	実用英語技能検定準2級以上合格を目標に、必要な単語や文法、リスニングやライティングの力を身に付ける			
実務経験	-			
授業の進め方	必要な単語や表現、文法を確認しながら過去問題や練習問題を解き進める			
到達目標	1 実用英語技能検定準2級レベルの語彙力や読解力を身に付ける 2 リスニング問題や作文問題、面接にも対応できるよう4技能をバランスよく身に付ける			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画 (1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	重要な単語	8		
2	注意すべき文法	5		
3	作文	2		
4	リスニング	10		
5	面接練習(会話)	5		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	英語 I	授業方法	講義

項目	教 育 内 容	実施月	教育時間	備考
重要な単語	a 名詞 b 動詞 c 形容詞・副詞 d 前置詞・接続詞 e 熟語 f 会話表現	4月～6月	8	
注意すべき文法	a 時制 b 助動詞 c 比較 d 関係詞 e 仮定法	6月～7月	5	
作文	a 使える表現・文法 b 論理的な文の組み立て方	9月～10月	2	
リスニング	a ディクテーション b 音読 c 動画を用いたリスニング練習(応用)	11月～2月	10	
(面接練習 会話)	a 絵を見て描写する練習 b テーマに沿って意見を述べる練習 c ペアワーク / グループワーク d プレゼンテーション	2月～3月	5	

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	力野慎平 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空英語	授業 方法	<u>講義</u> ・演習・実習	教育時間	30
教科書	航空機マニュアルの読み方				
参考書	新これから学ぶ航空機整備英語マニュアル				

教 育 の 内 容				
授業概要	航空機整備に必要なドキュメント、専門英語の知識を付ける。			
実務経験	-			
授業の進め方	教科書とプレゼンテーションを利用して座学中心で学習を進める。			
到達目標	航空機整備マニュアルを読解できる知識を習得する。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画 (1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	航空英語概要	5		
2	整備用マニュアル概要	7		
3	ATA Spec-100	8		
4	語彙	10		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	航空英語	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
航空英語概要	a マニュアル用英語の特徴 b 文章の構成 c 前置詞 d 複合名詞 e 動詞 f Simplified Technical English	4月～5月	5	
整備用マニュアル概要	a 用途別分類 b Manual , Document および技術情報の種類 c 整備用 Manual の内容 d その他	5月～7月	7	
1000c	a 構成 b 章割りと表題 c 各章の内容	8月～11月	8	
語彙	a Component b Tool c Failure d Abbreviation e Word	11月～3月	10	

2022授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/2ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	伊豆原萌子 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空機材料学	授業 方法	(講義) 演習・実習	教育時間	60
教科書	日本航空技術協会「航空工学講座 4 航空機材料」				
	日本航空技術協会「航空機の基本技術」				
参考書	-				

教 育 の 内 容				
授業概要	航空機に使用されている金属材料、非金属材料の性質及び規格、材料力学について整備士に必要とされる知識を習得させる。			
実務経験	定期航空運送事業会社の実務経験を活かして航空機構造の授業を行っている。			
授業の進め方	教科書を基にして座学中心で学習を進めます。			
到達目標	航空機整備資格の取得に必要な「航空機材料」についての基礎を習得する。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	力学および材料力学の基礎	20		
2	金属材料	22		
3	非金属材料	10		
4	複合材料	8		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	航空機材料学	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
1 力学および材料力学の基礎	1. 力学の基礎 2. 荷重の種類・応力の種類 3. 引張応力・せん断応力・ひずみ 4. 弾性係数・応力ひずみ線図 5. 支点の反力 6. はりの曲げモーメント・せん断力 7. トラス構造の応力と軸力	4月～6月	18	
	確認試験(1～3)		1	
	確認試験(4～7)		1	
2 金属材料	1. 構造用金属材料 2. 機械的性質・クリープ・材料試験 3. 金属材料の機械的性質を変える方法 4. 熱処理 5. 代表的な材料規格・アルミニウム合金 6. アルミニウム合金の用途による分類と規格 7. アルミニウム合金の機械的性質を変える方法 8. 航空機に用いられる主なアルミニウム合金 9. チタン合金 10. マグネシウム合金 11. 鋼一般・鋼の規格 12. 炭素鋼・高張力鋼、耐食鋼、耐熱鋼	7月～11月	20	
	確認試験(1～4)		1	
	確認試験(5～12)		1	
3 非金属材料	1. 一般 2. プラスチック、ゴム 3. シーラント、接着剤 4. 塗料	12月	9	
	確認試験		1	
4 複合材料	1. 一般、FRCMの基材 2. 理論と特性 3. 複合材の製法、検査、修理	1月	7	
	確認試験		1	

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/4ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	鈴木勇希 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空計器学	授業 方法	(講義)・演習・実習	教育時間	75
教科書	日本航空技術協会「航空工学講座 8 航空計器」				
	日本航空技術協会「航空工学講座 10 航空電子・電気装備」				
参考書					

教 育 の 内 容				
授業概要	航空機用計器の構造、機能、取扱、および注意事項を理解させる。 航空機に装備されている無線通信装置、無線航法装置、およびその他の装置等の構成作動原理、その運用方法を理解させる。			
実務経験	—			
授業の進め方	教科書を基にして座学中心で学習を進めます。			
到達目標	航空機整備資格の取得に必要な「航空計器」についての基礎を習得する。			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	80%	-	20%	100%
授 業 計 画 (1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	計器一般、計器の装備および空盒計器	15		
2	圧力計と温度計	10		
3	回転計、液量計・流量計、およびジャイロ計器	10		
4	磁気コンパス	10		
5	電気計器、基礎知識、および通信装置	10		
6	無線航法装置	10		
7	その他の航法装置	10		

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目

・ 一般科目

1/4ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科 航空機整備訓練課程	担当	力野慎平 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空法規	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	60
教科書	日本航空技術協会 新航空法規解説				
参考書	日本航空技術協会 航空機の基本技術				

教 育 の 内 容				
授業概要	航空機整備士に必要な航空機登録、航空機の安全性、航空従事者及び、航空機の運航についての関係法規を理解させる。			
実務経験	航空整備士の実務経験を生かして航空法規の授業を行っている			
授業の進め方	授業では、板書、プレゼンテーション、ハンドアウト(配付印刷物)、eラーニング等を活用する。			
到達目標	1, 航空機整備作業に必要な関連法規を理解させる 2, 航空従事者(航空整備士) 国家試験(学科・実技)の合格、資格取得を目指す			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	50%	30%	20%	100%
授 業 計 画				
(1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	目的、定義、および登録	8		
2	航空機の安全性	21		
3	航空従事者と航空機の運航	17		
4	航空運送事業等とその他	14		

学科	航空整備科 航空機整備訓練課程	学年	1年
科目	航空法規	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
目的、定義、および登録	1. 法の体系と航空法の構成 a. 国際民間航空条約 b. 電波法、高圧ガス保安法 c. 航空機製造事業法 2. 航空法の目的、定義 3. 付属書第一、付属書第二、付属書第三 4. 耐空類別 5. 登録 a. 新規登録、変更登録 b. 移転登録、抹消登録 6. 登録の要件 7. 登録証明書 8. 登録記号の打刻 9. 対抗力	4~5月	7	
	確認試験		1	
航空機の安全性	1. 耐空証明 a. 航空法第10条第4項の基準 b. 運用限界等指定書、飛行規程 c. 耐空検査員 d. 試験飛行 e. 耐空証明の有効期間 f. 耐空証明の効力の停止、失効 2. 型式証明 a. 型式証明の変更 b. 追加型式証明 3. 型式承認及び仕様承認 4. 耐空性審査要領 5. TCD 6. 修理改造検査 a. 作業の区分と作業内容 b. 確認主任者 c. 工場整備士 d. 軽微な保守、一般的保守 e. 軽微な修理、小修理、大修理 f. 小改造、大改造	5~8月	20	

学科	航空整備科 航空機整備訓練課程	学年	1年
科目	航空法規	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
航空機の安全性	8. 発動機等の整備 9. 限界使用時間 10. 航空機の整備または改造 11. 認定事業場 a. 能力区分 b. 業務範囲及び作業区分の限定 c. 認定の基準 d. 業務規程 e. 確認主任者 f. 基準適合証 g. 確認の方法 h. 認定の有効期間	5～8月	(20)	
	確認試験		1	
航空従事者と航空機の運航	1. 技能証明 a. 技能証明書 b. 資格 c. 技能証明の限定及び限定変更 d. 技能証明の要件 e. 欠格事由 f. 業務範囲 g. 試験 h. 技能証明の取り消し i. 航空従事者の養成施設 2. 一等・二等航空整備士 3. 一等・二等航空運航整備士 4. 国籍等の表示及び識別板 5. 航空日誌 6. 航空機に備え付ける書類 a. 運用限界等指定書 b. 飛行規程(運航規程) 7. 航空機の航行の安全を確保するための装置 8. 航空機の運航の状況を記録するための装置 次頁に続く	8～11月	16	

学科	航空整備科 航空機整備訓練課程	学年	1年
科目	航空法規	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
航空従事者と航空機の運航	9. 救急用具 a. 救急用具の装備、点検期間 b. 特定救急用具 c. 特定救急用具の型式承認 10. 航空機の燃料 11. 航空機の灯火 12. 地上移動	8～11月	16	
	確認試験		1	
航空運送事業等とその他	1. 運航規程及び整備規程の認可 2. 運航規程及び整備規程の要目 a. 緊急の場合において取るべき措置等 b. 運用許容基準 c. 特別点検 4. 飛行場、空港 5. 航空保安施設 6. 人間の能力、および限界 a. 整備とヒューマン・ファクター b. ヒューマン・ファクターの概念 c. 人間の能力と限界 d. ヒューマンエラーとヒューマンエラーの管理	11～3月	13	
	確認試験		1	

2022 授業計画書 (シラバス)

科目区分

専門科目 ・ 一般科目

1/4ページ

(専) 日本航空大学校					
学科 コース名	航空整備科	担当	伊豆原萌子 (常勤)	開講時期	1年次 通年
科目名	航空力学	授業 方法	講義・演習・実習	教育時間	90
教科書	日本航空技術協会 航空工学講座 [1] 「航空力学」				
参考書	鳳分書林出版 基礎航空工学 耐空性審査要領				

教 育 の 内 容				
授業概要	1. 航空力学の知識を習得させる。 2. 航空機の空力特性、安定性、操縦性の知識を習得させる。			
実務経験	航空整備士の実務経験を生かして航空法規の授業を行っている			
授業の進め方	授業では、板書、プレゼンテーション、ハンドアウト(配付印刷物)、eラーニング等を活用する。			
到達目標	1, 飛行の原理、空力特性の全般・基礎について理解させる 2, 航空従事者(航空整備士) 国家試験(学科・実技)の合格、資格取得を目指す			
学業成績の 評価方法	期末得点	実技点	評点	評価点
	50%	30%	20%	100%
授 業 計 画 (1単位時間=50分)				
No.	教 育 項 目	時 間	備 考	
1	基礎(流体力学)と翼型の理論	19		
2	飛行機の翼	13		
3	全機の空力特性と性能	23		
4	高速空気力学と安定性	15		
5	操縦性	10		
6	重量及び重心位置と航空機の振動	10		

学科	航空整備科	学年	1年
科目	航空力学	授業方法	講義

項目	教育内容	実施月	教育時間	備考
基礎 (流体力学) と翼型の理論	1. 標準大気 2. 連続の法則 3. ベルヌーイの定理 4. 翼に生じる揚力 5. 層流と乱流及び臨界レイノルズ数 6. 境界層、剥離 7. 対気速度 8. 翼型各部の名称 9. 揚力、抗力と迎え角 10. 風圧分布と風圧中心 11. 空力モーメントと空力中心 12. 翼の失速 13. 翼型特性 14. 高揚力装置	4～6月	18	
	確認試験		1	
飛行機 の翼	1. 主翼の平面形と取り付け角 2. アスペクト比の効果 3. 空力平均翼弦 4. 誘導抗力と誘導迎え角 5. 翼の循環理論 6. 翼幅方向の揚力分布 7. 翼端失速と自転現象 8. 後退翼の空力特性	6～7月	12	
	確認試験		1	
全機 の空力特性 と性能	1. 全機の抗力 2. 全機の最小有害抗力係数 3. プロペラ後流の影響 4. 地面効果 5. ウェイク・タービュランス 6. 利用馬力と必要馬力 7. 水平飛行 8. 滑空・降下性能 9. 上昇性能 10. 旋回	11～3月	22	
	次頁に続く			